

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月28日

茨城県知事 殿

提出者

住 所:茨城県結城郡八千代町菅谷 898-18

氏 名:株式会社エッグドリーム八千代

代表取締役 忠田 光男

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号:0296-48-1221

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

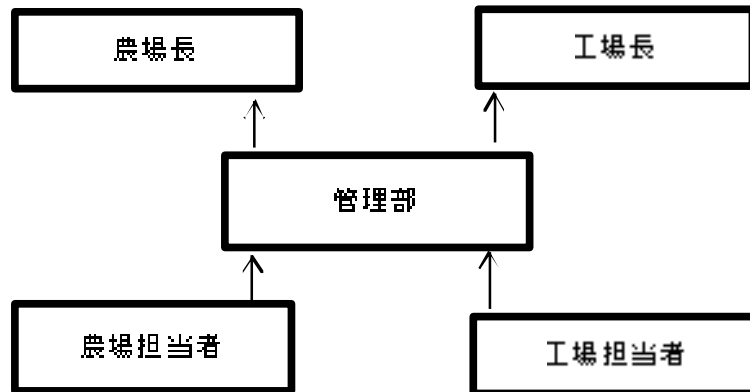
事業場の名称	株式会社エッグドリーム八千代
事業場の所在地	茨城県結城郡八千代町菅谷 898-18
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	農業（畜産業）
② 事業の規模	前年度売上高 約55億円
③ 従業員数	128人（正社員30人、契約社員・パート98人）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR A[農場（鶏舎）] --> B[パッキング工場] A --> C[動物の死骸] A --> D[家畜の糞尿] A --> E[汚泥・廃プラ] B --> F[動物性残さ] B --> G[廃プラ・紙屑] B --> H[ガラス・コンクリ] B --> I[陶磁器・屑] C --> F D --> F E --> G E --> H E --> I </pre>

（日本工業規格A列4番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	〔前年度（令和 4 年度）実績〕						
	産業廃棄物の種類	家畜の糞尿	腐ブラ ・紙屑	動物性 残さ	ガラス＝コンクリ ート・陶磁器 くず	動物の 死骸	
	排 出 量	11,009 t	70 t	160 t	56 t	92 t	
〔これまでに実施した取組〕 家畜の糞尿（鶏糞）：飼育設備による乾燥化促進。 動物性残さ：規格外たまご発生量を削減させるため、 飼育方法や製造ラインの見直し。							
② 計画	〔目標〕前年度より産業廃棄物の排出を 5%抑制すること（鶏糞以外）。						
	産業廃棄物の種類	家畜の糞尿	腐ブラ ・紙屑	動物性 残さ	ガラス＝コンクリ ート・陶磁器 くず	動物の 死骸	
	排 出 量	10,450 t	66 t	152 t	53 t	87 t	
〔今後実施する予定の取組〕 家畜の糞尿（鶏糞）：飼育設備による乾燥化促進。飼育羽数見直し。 動物性残さ：規格外たまご発生量を削減させるため、飼育方法や 製造ラインの見直し。腐棄卵削減すべく在庫管理徹底。 腐ブラ・紙屑：製造ロス削減のため、作業工程の見直し。 動物の死骸：飼育管理の徹底による減産率減少。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	〔分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組〕 家畜の糞尿（鶏糞）、動物性残さ、腐プラスチック、紙屑、ガラス、 コンクリート、陶磁器・屑
②計画	〔今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組〕 家畜の糞尿（鶏糞）、動物性残さ、腐プラスチック、紙屑、ガラス、 コンクリート、陶磁器・屑

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	〔前年度（令和 4 年度）実績〕		
	産業廃棄物の種類	家畜の糞尿（鶏糞）	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	11,009 t	
	〔これまでに実施した取組〕 家畜の糞尿（鶏糞）：農地還元、ペレット肥料への転換。		
②計画	〔目標〕		
	産業廃棄物の種類	家畜の糞尿（鶏糞）	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	10,450 t	
	〔今後実施する予定の取組〕 家畜の糞尿（鶏糞）：農地還元、ペレット肥料への転換。飼育羽数見直し。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	〔前年度（ 年度）実績〕		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		
	〔これまでに実施した取組〕		
②計画	〔目標〕		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		
	〔今後実施する予定の取組〕		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
①現状	〔前年度（ 年度）実績〕						
	産業廃棄物の種類						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	〔これまでに実施した取組〕						
②計画	〔目標〕						
	産業廃棄物の種類						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	〔今後実施する予定の取組〕						
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
① 現状	〔前年度（令和 4 年度）実績〕						
	産業廃棄物の種類	事業の廃棄	腐ブラ・紙屑	動物性 残さ	プラスチック リット・廃破砕 くず	動物の 死骸	
	全処理委託量		70t	160t	56t	92t	
	飼料製造工場 からの委託				56t		
	製造現場業務 からの委託		70t	160t		92t	
	製造現場業務 からの委託						
	製造現場業務 からの委託						
	〔これまでに実施した取組〕 動物性残さ：規格外たまご発生量を削減させるため、飼育方法や製造ラインの見直し。 腐ブラ・紙屑：製造ロス削減の為、作業工程の見直し。						

〔第 5 面〕

②計画	〔目標〕前年度より産業廃棄物の排出を 10%抑制すること（鶏糞以外）。						
	産業廃棄物の種類	有害の廃棄物	廃プラ・紙屑	動物性残さ	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	動物の死骸	
	全処理委託量		66t	152t	53t	87t	
	優良処理業者への処理委託量				53t		
	厚生利用業者への処理委託量		66 t	152 t		87t	
	処理回収業者への処理委託量						
	処理回収業者以外の回収を行う業者への処理委託量						
	〔今後実施する予定の取組〕 動物性残さ：規格外たまご発生量を削減させるため、飼育方法や製造ラインの見直し。廃棄卵削減すべく在庫管理徹底。 廃プラ・紙屑：製造ロス削減の為、作業工程の見直し。						
	※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②の欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)③の欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、**「－」を記入すること。**
- 7 ※欄は記入しないこと。